

令和7年度 合志市中学校部活動地域展開 第4回検討委員会

議事録

1 期 日 令和7年7月14日(月)

2 会 場 合志市総合センター「ヴィーブル」研修室

15時30分～

① 開 会

② 渡辺生涯学習課長あいさつ

時候の挨拶、第4回目の検討委員会という事で実態調査の報告と「学校と街の部活動」の方向性決定という事で説明をします。

先生方の負担軽減と中学生が今後も活動が続けられるようにご審議ください。

③ 委員紹介

本年度の検討委員会委員の紹介(委員名簿は別紙のとおり)

④ 議長選出

高本教育委員を選出

⑤ 協 議

ア 実態調査報告について

【事務局】

・「地域移行」から「地域展開」への変更について説明

・令和7年4月現在の合志市内の中学校部活動の実態です。

各中学校の活動の様子を写真とともに指導者数、参加生徒数(2年、3年)、活動日・時間、対外試合頻度、令和6年度実績等を中学校ごと表にして説明。

合志市内中学校の部活動数、部員数、スポーツ系・文科系の部員数、指導者数(経験者・未経験者・外部指導者)、地域移行になった場合指導を希望するか、をグラフで表示。

実態からの考察を提言して、まずは指導者と部活動のマッチングシステムの構築が必要という結論となった。

合志市版人材バンクの立ち上げが第一となった。

【議長】

今までの説明で質問等ありませんか。

無いようなので続けて説明をお願いします。

【事務局】

「学校と街の部活動」の方向性決定について

一斉に地域移行は課題が多すぎるため、段階を追って地域展開を進めていく事にした。

つまり、子どもたちの活動は変わらない。先生の負担を少しでも少なくする。

まず、休日から地域展開を開始していく。したがって、地域指導者が見つからない、マッチングが成立しない部活動においては、そのまま部活動を継続していく事になる。

そのために、「人材バンク」を立ち上げることが第一。

現在4中学校に26名の外部指導者がいる。この人たちを人材バンクに登録してもらう。その他の人たちは熊本県のサポーターバンクに登録している人や合志市職員にも登録を呼びかけていく。

「合志市人材バンク設置要綱」を作成し募集していく事になる。

【議長】

意見等ありましたらお願いします。

【委員】

親の立場からすると、この指導者に預けたいという思いは強いと思う。その時に校区を無くして通学できるか、そのような構想はあるのか。

【事務局】

今は考えていない。先生が地域指導者として他校で指導することはあるかもしれない。合同部活動という事になった場合はその都度協議していく。基本は学校の部活動のまま。

【委員】

各学校で始業と終業の時間が違うので、それをそろえないと難しい状況。あの指導者に指導してもらいたいという親の気持ちは出てくると思う。そうすると校区の問題が出てくる。熊本市は校区を無くしている。合志市もそのことを検討してもらいたい。熊本市はできて合志市はできないのかという質問は多く来る。親の立場からすると指導力の高い指導者に預けたいという思いはある。勝利至上主義と言われればそれまでだが。

「ゆるスポーツ」を担当する先生の負担も大きいと思う。

【事務局】

合同部活動に関しては休日のみを考えている。平日は終業時間等の関係でかなり厳しいと考えている。

【議長】

指導者や競技関係の立場や保護者の立場から意見はないですか。

【委員】

人材バンクの立ち上げに関して具体的にはどのように進めていくのか。

【事務局】

外部指導者で来られている26名の方にコンタクトをとっていく。そして、人材バンクに登録していく事が立ち上げになっていく。募集はこの検討委員会で承認をもらって始めていく事になる。

【委員】

見通しが立てられたのはありがたい。八代は少子化の影響で令和8年度からの中体連には単独では出ないことになった。地域クラブがあったが指導者がいないという事で地域クラブはなくなった。熊本市がとん挫したのも同じ。熊本市も兼職兼業の問題があって、夏休みも勤務時間終了から指導することに大きな抵抗があった。合志市の中学校は部活動が盛んで保護者の考えも多様なのでかなり厳しいと思う。今年度から部活動ボランティア制度も作っている。

そこに、保護者や兄、姉の学生に来てもらっている。そのような状況なので人材バンクについては厳しいと思う。指導者の奪い合いが出てくるのではないか。いろいろな条件をクリアしていかないといけないと思う。

【委員】

親の立場としては人材バンクの質が気になる。中学校という多感な時期なので、そのことは考慮してほしい。クラブチームは勝利至上主義なので学校生活がどうであろうと試合に出られる生徒がいる。全部のクラブチームがそうではないが。部活動は中学生の人格的な指導であってほしい。

【事務局】

そのようなことを考慮して「学校と街の部活動」というシステムを考えている。先生が全く関わらないという事ではなく、どこかで子ども達に関わってもらうのがこのやり方。

【委員】

本校は、全員の先生にお手伝いをしてもらうというやり方で部活動を持ってもらっている。その条件がとれると3分の1以下もしくはなくなる可能性がある。部活動の教育的な効果を重要視している。部員が少なくなっている部から合同にしていくといいのではないか。指導者に関しては教員は7年縛りという課題がある。

【事務局】

しばらくは学校部活動でいくしかない。

【委員】

他市町の外部指導者の状況はデータとして持っているか。ほぼ元教員。アスリートは絶対しない。謝金が多い所に行く。そうなってくると指導者は元教員しかいない状況になってくる。武道系は資格を持っていないと指導が難しいと思う。

【議長】

指導者の数を確保すればいいというわけではなくて、指導者の資質も確認していく必要があるという事。小学校の部活動が社会体育になった時、指導者の中には何を目的に指導されているのかわからない人がいた。そのような状況にならないでいてほしい。

【委員】

部活動の指針があっても保護者は試合に勝ちたい気持ちが強い。それを学校に要求される。そこが職員への負担が大きくなっている。

【事務局】

人材バンクの進め方で量と質のバランスとりつつ進めていく。国の方針に沿って進めていきたい。ステップを踏みながら少しずつ進めていくので、いろいろな情報等があれば知らせてほしい。

【議長】

事務協への情報をお願いします。

【事務局】

次回は11月17日(月)を予定する。実証事業や人材バンクの進捗状況を説明する。

⑥ 閉 会